

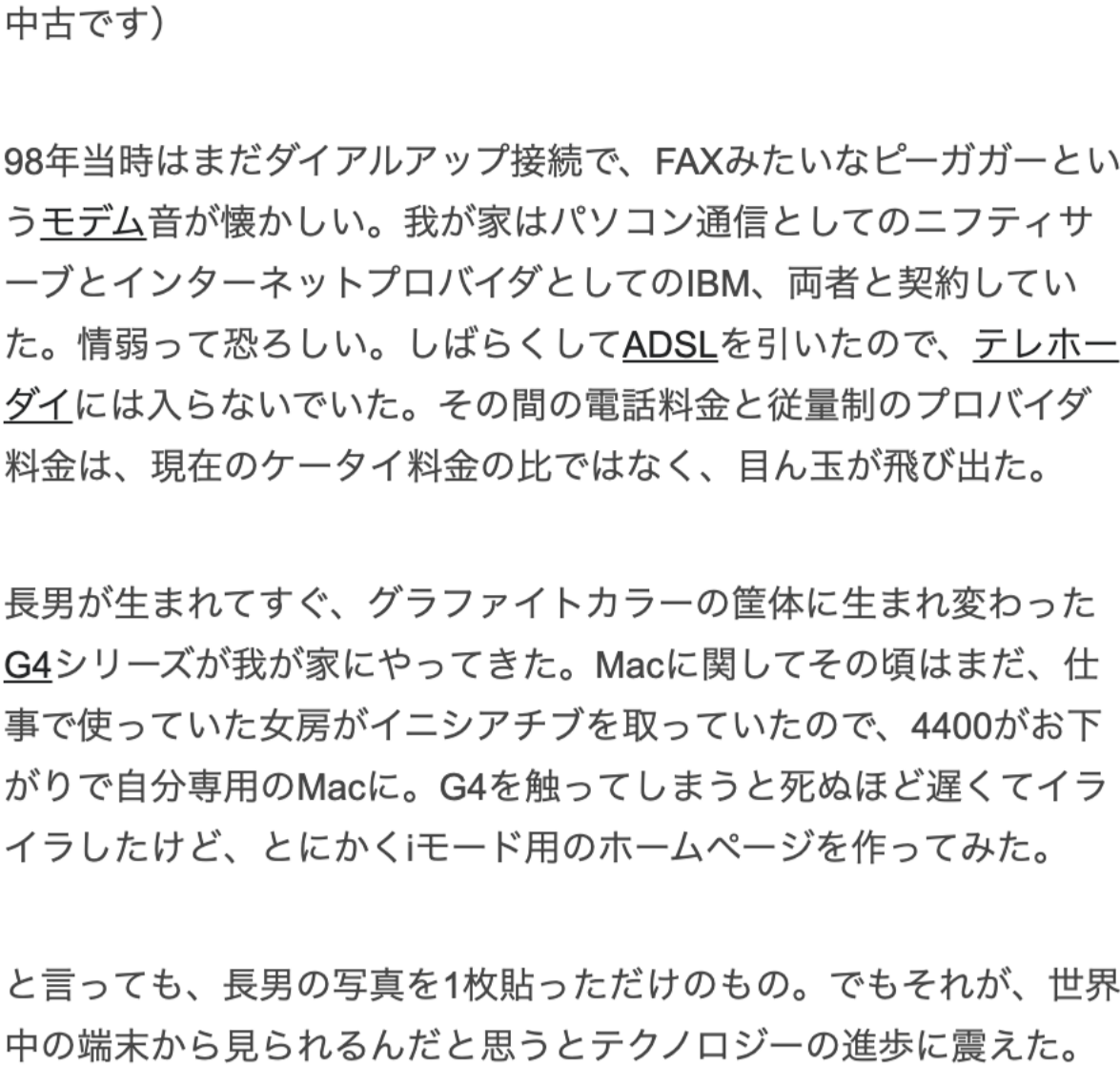
黒歴史

ウキ銘じゃなく一般的な意味のソレ

2020年2月18日・Mac, 仕事, ヘラ釣り

パソコンオタクの時代

過去ログを漁っていると、本来は完璧主義なA型の血が騒ぎ出す。あらゆる過去を掘り出したくなるのだ。それがどんなに黒歴史であり忘れたい過去であっても、「どうせアーカイブするなら全て」という気持ちが勝る。あ〜、これは良くない傾向だ。ただ残念なことに、いや有り難いことに、記憶に残る最古のサイトのデータは残っていない。



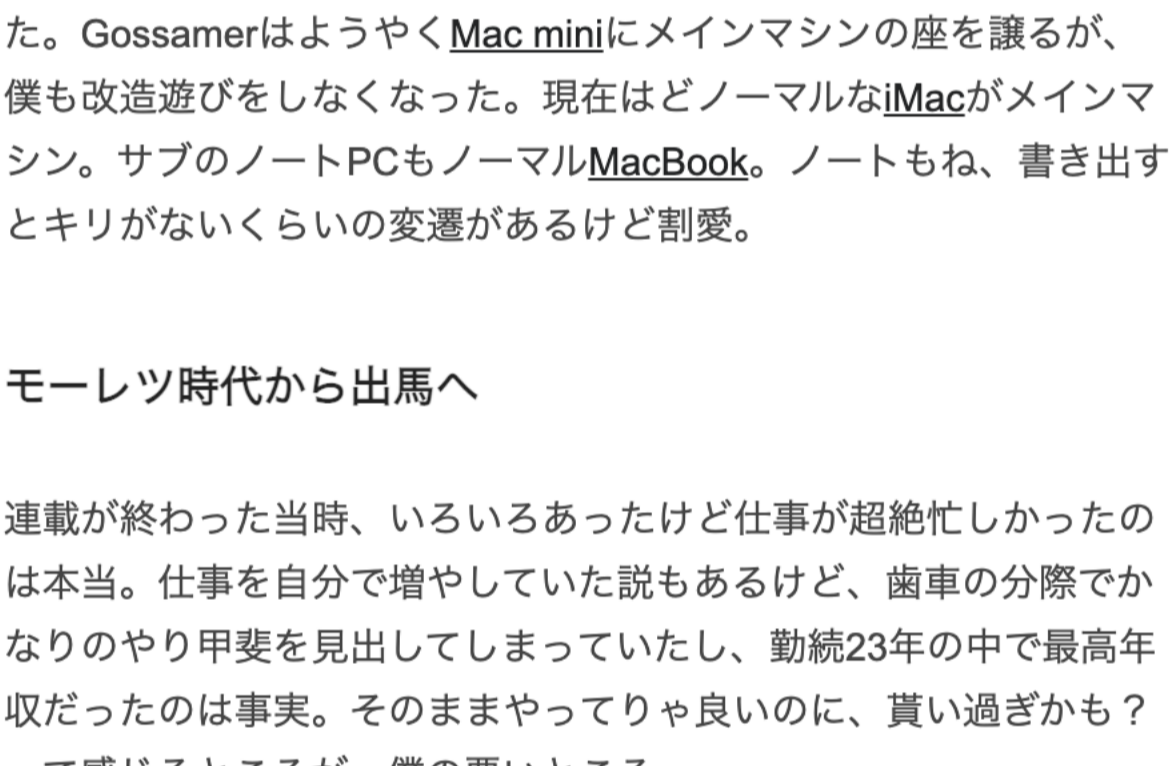
我が家にネットが来たのは98年。iMac発売後間もなく、投げ売りされていたMacintoshパフオーマラインの最終型となるPM4400と共にやってきた。マカーを自認し、子供の頃から憧れていた割には、林檎ロゴを手に入れたのはかなり遅かった。が、その後20年強で、数十台のMacが我が家に来ては去ることになる。（もちろんほとんど中古です）

98年当時はまだダイヤルアップ接続で、FAXみたいなピーガガーというモデム音が懐かしい。我が家はパソコン通信としてのニフティサーブとインターネットプロバイダとしてのIBM、両者と契約していた。情弱って恐ろしい。しばらくしてADSLを引いたので、テレホーダイには入らないでいた。その間の電話料金と従量制のプロバイダ料金は、現在のケータイ料金の比ではなく、目ん玉が飛び出た。

長男が生まれてすぐ、グラフィックカラーの筐体に生まれ変わったG4シリーズが我が家にやってきた。Macに関してその頃はまだ、仕事で使っていた女房がイニシアチブを取っていたので、4400がお下がりりで自分専用のMacに。G4を触ってしまうと死ぬほど遅くてイライラしたけど、とにかくiモード用のホームページを作ってみた。

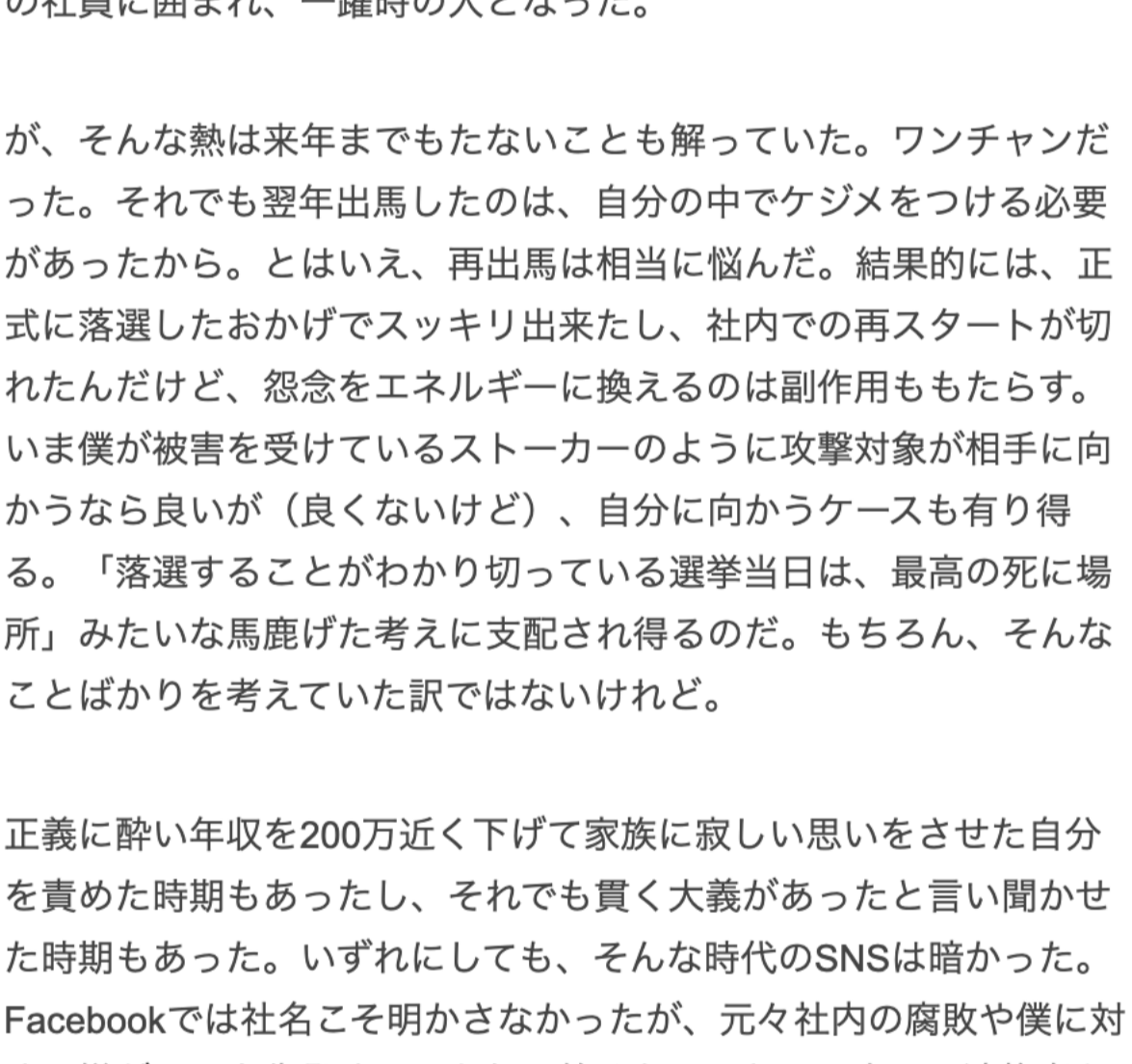
と言っても、長男の写真を1枚貼っただけのもの。でもそれが、世界中の端末から見られるんだと思うとテクノロジーの進歩に震えた。同時に、個人情報やダダ漏れになる未来も予感。しばらくして子供の写真は削除した。よく見かけるけど、SNSに子供の写真を貼るのは僕は賛成できない。前々回の息子の写真は、もう大昔のだし。と言いながら、連載ではタイムリーに載せてましたね（笑）

4400のグラボが逝くと、待ってましたとばかりに次のMacをやフオクで入手。女房のG4より遥かに劣るものの、98年にお邪魔したへら専科編集部で見て憧れていたモニターのG3、Apple最後のページMacとなったGossamer。これにはお金かけましたね。最終的にCPUはG4に換装したし、メモリもMAX積んで、グラボも換えて、みたいな。HDDも隙間のある限り積んで、足りない電源も交換。ガワとシャーシ、ロジックボード以外はオール社外品のフルチューンは、皆様ご想像通りの不安定さ。それでもこのじゃじゃ馬が好きで、女房のG4より速いCubeを手に入れてもなお、メインマシンの座を譲らせなかった。我が家がADSLから光回線に変わったのもこの頃。



Windowsと違ってMacintoshには自作派ってのが存在しないんで、改造くらいしか遊び方がないんだけど、とにかく空きベイは許せないといった感じ。光学ドライブも新しいものが出れば常に入れ替え、最後はベイが足りずにベゼルに穴をあけるようなノリだったけど、現行モデルに光学ドライブは非搭載ってんだから、時代も変わるもんです。

そんな時代に再開したヘラ釣りは、連載がキッカケ。そんな時代だからこそ、ウェブ連動で行こうぜ！ということになり、急いでホームページをこしらえ、掲示板も設置。連載の感想や意見、読者が自由に書き込めるってのは、間違いなく時代の最先端だった筈。でもね、こういうのは荒れるの。つきっきりで管理しないと無理。開設した以上、読者のコメントに反応しない訳にはいかないし、コンテンツを長いこと更新しなくてもみっともない。なので、連載の途中でヤメちゃった（笑）



普通はちょっとナイ、です。これをギャグとして認めるノリが、当時の編集長と僕の間にあったことは確かでも。ふたりとも若かったとしか言いようがないですね。で、掲示板のログもサイトコンテンツも含め、全てのデータが残ってないという。。タイトルは「A Hesar?」というホームページ。へら鮎社の連載と連動するのに、トップページ画像はへら専科取材時のものというね。そういうことは記憶。その後に行ったサイトが、「実際のMacで書くブログ」じゃないかな。MADOGIWA〜(改)の前身。

出版業界でのOS9が終焉、いよいよOS Xが主流になり、CPUがPowerPCからintelに変わってからは、我が家にも新しい風が吹いた。GossamerはようやくMac miniにメインマシンの座を譲るが、僕も改造遊びをしなくなった。現在はどノーマルなMacがメインマシン。サブのノートPCもノーマルMacBook。ノートもね、書き出すとキリがないくらいの変遷があるけど割愛。

モーレツ時代から出馬へ

連載が終わった当時、いろいろあったけど仕事が超絶忙しかったのは本当。仕事を自分で増やしていた説もあるけど、歯車の中分際でかなりのやり甲斐を見出してしまっていたし、勤続23年の中で最高年収だったのは事実。そのままやってりゃ良いのに、貰い過ぎかも？って感じるところが、僕の悪いところ。

誰もがやり甲斐を感じられる制度を求めて、労組の支部委員長選に出馬→無理やり選挙違反にされて失格。そして降格。そこからは地獄（笑）我ながらよくあそこで辞めなかったなと。3年後に元の職位に戻ることができ、5年平和な時代を味わって、最後は会社の方針変更にあわずに退社。なんにも悪いことしてないのに、月8万円もの減給シミュレーションをシレッと提示できる組織に愛想が尽きた。同僚たちは良く残ってると思う。

失格後のメンタルは最悪だった。立ち直るまでに半年はかかったと思う。現在の、自分史上何回目かの釣り大好き時代は、そこからすぐに始まった訳ではなく、まずは会社（労組）と徹底的に戦う方向に向かった。失格の翌年、僕は再び出馬している。それはもう見事なまでの惨敗で終わり、法を握り選挙違反など関係ない権力側と、大衆の無関心ぶりとを、完全アウェーの中で身をもって知ることになるんだけど、そんなことはやる前から解っていた。だから前年はグレーゾーンで奇襲を仕掛けた。それは、選挙違反を規定した文書が無いというお粗末な状況であっても、強引に失格にされてしまう可能性も覚悟した一か八かの勝負だった。

毎年互選で静かに決まり、もしかすると選挙というカタチで専従者が選ばれていることすら知らない社員が大半だったのではないかな。そこで僕は、事前に全職場に選挙演説をメール配信した。前代未聞のアクションに、労組ではなく会社が介入。メールはサーバ管理者によって削除される騒ぎとなった。紛糾する選挙当日。最終的に僕は失格を受け入れて場を収めたが、「来年はお前に投票する」大勢の社員に囲まれ、一躍時の人となった。

が、そんな熱は来年までもたないことも解っていた。ワンチャンだった。それでも翌年出馬したのは、自分の中でケジメをつける必要があったから。とはいえ、再出馬は相当に悩んだ。結果的には、正式に落選したおかげでスッキリ出来たし、社内での再スタートが切れたんだけど、怨念をエネルギーに換えるのは副作用ももたらす。いま僕が被害を受けているストーカーのように攻撃対象が相手に向かうなら良いが（良くないけど）、自分に向かうケースも有り得る。「落選することがわかり切っている選挙当日は、最高の死に場所」みたいな馬鹿げた考えに支配され得るのだ。もちろん、そんなことばかりを考えていた訳ではないけれど。

正義に酔い年収を200万近く下げて家族に寂しい思いをさせた自分を責めた時期もあったし、それでも貫く大義があったと言いつけた時期もあった。いずれにしても、そんな時代のSNSは暗かった。Facebookでは社名こそ明かさなかったが、元々社内の腐敗や僕に対する嫌がらせを告発するつもりで始めた。それこそ出馬不適格者として抹殺される可能性がある行為だが、大丈夫。当選する訳ないと思っていたし。それは相手も同じで、事実上の選挙運動禁止でセキュリティホールを塞いだ以上、妨害する必要さえ感じなかった筈だ。

ビリギャルとコインチェック

Facebookで知り合った友人に新しいSNS「STORYS.JP」を紹介されたのはその頃。後に映画ビリギャルを世に送り出し、仮想通貨流出騒ぎで茶の間を賑わせたコインチェックの母体となるサービス。おそらく全くの赤字で苦しかったであろう若いスタッフ達の、「俺ら情熱だけでやってます」感がピンピンに伝わってきた。スタート間もないからこそそのスタッフとの距離感に、オジサンとしては応援したくなり、ひたすら書きまくった。もちろん、彼らからは元気を貰った。

で、じゃあ元気に溢れた投稿をしたかっていうと、そうでもない。「遺書」だの「自殺未遂」だのってのは、僕がそうする・そうしたって話じゃなくて、他の方の投稿を引用したものですけどね。第一そんなもの、そうそう実名では書けないですよ。いやホントに、自分なんて全然ケンコー！って感じさせられる方が多くて、かなり考えさせられた時代でした。

ただ、たとえ引用でも印象がよろしくない。普段から、書いたものには責任を持ちたいと考える僕でさえ、消したほうが良いと判断しての削除依頼という流れ。失敗したなと思うのは、最後の投稿に「それらはみんな引用だけだね」とは書いておくべきだったと。エゴサーチという言葉を当時の僕は知らなかったこともバシちゃうけど、まあもう、これは消さないです。ちなみにCTO和田さんというのは、流出事件で記者会見に臨んだあの和田社長。つくづく不思議な接点だ。長生きすることが幸せなのかどうかは僕にはわからないけれど、そういう不思議さを沢山味わえるのだけは間違いのないと思う。

今再び、年収を大きく下げるアクションを選択した僕。歴史は繰り返すものだが、前回から全く学ばなかった訳でもない。いざとなったら腹を切れば済むんだろ？という覚悟は大事だが、そうならないように死ぬ気で努力する。罪悪感から逃れるためとか、自虐的になってとかっていう理由で死を選ぶことは、僕はないと思う。なぜなら、日本において起業するということは人でなしと呼ばれることと同義だ。そこに思い至ったからこそそのアクションならば、それ以上墮ちることはない。

そう考えると、たしかに最初の出馬はアマかった。厚遇な自分を正当化するためのアクションという側面も多分にあった。自分のために、他人のためとすり替えたところに破綻の緒がある。二度目の選挙後に味わった「今日から自分の利だけを考えても許されるのだ」という開放感が、あの事件の全てだと思う。本当にそう動くかどうかは別としてもね。

追記 Facebookでシェアしました。いいね、コメントありがとうございました。

